

この人のこの言葉
やるの？ やらないの？ どっちなの？

大相撲の中継放送を見ていると、時々力士へのインタビューの場面が登場する。アナウンサーの間に答える言葉は、「一日一番、集中して、自分の相撲を、とりきるだけです」どの力士にインタビューしても同じ答が返ってくる。見ても面白くないし、あまり意義を感じない。無欲で精進することをもって是とする世界に住む人に対して、心構えを聞けばこうなることは当たり前なのか。時として、インタビューの仕方（インタビュー技術）にも問題があるのではないかと感じる事がある。さてニュースが始まると、自由民主党の政治資金の流れを巡る話題が毎日登場する。1月5日、自民党内に「政治刷新本部」を設置することが決まったことを受けて、党役員会議が終わった後、岸田首相は記者団の質問にこう応えた。「政治の信頼回復のために党一丸となって取り組む。こうした組織を通じて我が党の信頼回復に努めなければならない」「信頼回復に努める」という主体的な行動を示してはならず、「努めなければならない」という、一步身を引いた他人事への客観的評論家的感想を述べている。今さら心構えなど聞かされても何も意味はない。賢い新聞記者ならば、「心構えは良いのですが、やるのかやらないのかをわかりやすく答えていただきたい」と切り返すべきところ、そのような行為に出る記者は誰もいない。もっとも、対策として打ち出した「政治刷新本部」の設立も、全く自覚のない目くらましのような内容で、問題意識も危機感も微塵もあるとは思えない。派閥活動をベースとした政治活動がもたらした問題への対応策を、派閥代表者チームで検討しても答が出るはずはない。答は出されるのかもしれないが、保身をベースとして適当な文書を作るだけであることは誰が見ても想像がつく。記者会見に参加した記者達もレベルが低い感じがするし、そこに火を着けることができない野党の方々もぼんくらである。野党でも同じようなことをしているので迂闊なことは言えないのかもしれないが…。

恒例の首相の年頭記者会見の内容を振り返っていくつかピックアップして見ると…
「こういった事態を招いていることについて極めて遺憾に思い、心からお詫びを申し上げなければならない」
「党全体の問題として強い危機感を持って、一致結束して対応しなければならない」
「私自身が先頭に立って、国民の信頼回復に取り組んで行かなければならない」
「具体的な内容はこれから議論していかなければならない」
「こういった国民の疑念があるということは、深刻に受け止めなければならない」
「私自身先頭に立って、被災地及び被災者に寄り添って努力しなければならない」
これらの言い回しは、各記者からの質問に答える場面で頻繁に登場する。「やる」でなく、「やらない」でもない。他人事としてとらえて感想を述べているだけで、聞いていても耳障りなだけ。国民の期待に応えられていない。しかし、よくよく聞いていると、語句の間に省略されている言葉を（）で挿入してみると何となく合点が行く。

「こういった事態を招いていることについては（特に問題視してはいないが）、国民にお詫びを申し上げなければならない（でしょうかね?）」
「党全体の問題（とまでは思っていないが）、危機感を（持った方が良いでしょう）。しかし、（派閥の問題なので）一致結束は（困難とっております）」
「私自身が先頭に（立てる立場ではないので）、国民の信頼回復に取り組んで（行くのは難しい）でしょう」
「具体的な内容はこれから議論（するとしても大きな変化は期待できないでしょう）」
「こういった国民の疑念があるということは、（知りませんでした）深刻に受け止め（た方が良いでしょうかね）」
「私自身先頭に立って、被災地及び被災者に（会って票集めに繋がる努力をしたい）」